

# NMT 国臨協関信

関信支部ニュース第232号 令和5年4月



支部HPアドレス  
<https://www.kanshinshibu.org/index.html>



支部NEWSアドレス  
<https://www.kanshinshibu.org/member/news.html>

●事務局 / 〒162-8655東京都新宿区戸山1-21-1  
 国立国際医療研究センター病院  
 中央検査部門内

●発行者 / 吉田茂久  
 ●編集委員 / 齋藤広樹 竹内智也 鷹取有紀 渡辺順也 飯田伊織  
 ●印刷所 / 一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624

第77回 The 77th Annual Meeting of Japanese Society of National Medical Services  
**国立病院総合医学会**  
**未来へ向かって**  
 ~日本の医療を支える国立病院機構~  
**2023年10月20日(金)-21日(土)**  
 会場: リーガロイヤルホテル広島  
 広島県立総合体育館  
 会長: 下瀬 省二 (国立病院機構呉医療センター院長)  
 副会長: 新甲 靖 (国立病院機構広島西医療センター院長)

事務局 | 国立病院機構 呉医療センター  
 〒737-0023 広島県呉市青山町3番1号 TEL: 0823-22-3111 E-mail: 506-syomugakari@mail.hosp.go.jp

運営事務局 | 日本コンベンションサービス株式会社 関西支社  
 〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-7 京阪神淀屋橋ビル2階 TEL: 06-6221-5933 E-mail: 77nms@convention.co.jp

<https://site.convention.co.jp/77nms/>

## 定期総会・合同交流会のお知らせ

国立病院臨床検査技師協会関信支部第51回定期総会につきまして今年度は電磁的方法による議決となります。議決権を有する会員におかれましては、議決権を行使していただけますようお願い申し上げます。方法などの詳細につきましては、HPをご確認ください。

また、令和5年度国臨協関信支部合同交流会につきまして、感染拡大の状況から開催は難しいと判断し、昨年に引き続き誠に残念ではありますが合同交流会を中止することいたしました。皆様におかれましてはご理解賜りますようお願い申し上げます。



# 定年を迎えて



## 国立国際医療研究センター病院 小関 満

このたび本年3月31日付をもちまして、定年退職を迎えることとなりました。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

昭和59年7月1日に、国立療養所下志津病院に賃金職員として採用されてから38年間で7施設を勤務いたしました。この間、多くの方々に支えられ沢山のことを経験し学ばせていただきました。振り返るとそれぞれの施設に多くの思い出があります。

初めて勤務した下志津病院では退職しようと思ったこともありましたが、一緒に働いた賃金職員仲間や先輩技師の励ましと激励のおかげで乗り切ることが出来ました。

初めて技師長として赴任した西群馬病院では渋川医療センター開院に向け、多くの仲間に助けられました。渋川市立総合病院と西群馬病院統合まであと1年と言うときに赴任しましたが、技師長と主任が総入れ替えという厳しい状態のなか副技師長を中心に皆で頑張っていたいただきました。そのおかげで院長先生より検査科に対し高い評価をいただく事ができました。

その他の施設でもいろいろなことがありましたが、一緒に仕事をする仲間というのは大切であると実感した38年間でした。私に関わった全ての方に感謝申し上げます。

現在、タスク・シフト/シェアの話が出ていますが、これからの臨床検査技師はどうあるべきなのか、自分はどのような技師になりたいのか将来をよく考えスキルアップに努めていただきたいと思います。

最後に国臨協関信支部の発展と皆様のご多幸とご活躍を祈念してご挨拶とさせていただきます。



## NHO 西埼玉中央病院 佐藤 紀之

今年、年男（卯年）であり3月に60歳を迎える自分に関信支部役員より原稿依頼の連絡がありました。関信支部ニュースの貴重な紙面に挨拶文を載せていただきますこと心よりお礼申し上げます。

本年3月31日付をもちまして定年を迎えることになりました。1986年4月国立東京第二病院の賃金職員として採用され1988年4月同施設に常勤職員に採用、その後災害医療センター・東埼玉病院・東京医療センター・久里浜医療センター・西埼玉中央病院6施設36年間お世話になりました。常に自宅から通える施設への異動でしたが久里浜医療への通勤は無理との判断で初めて4年間単身（自炊）経験をさせていただきました。宿舎の目の前は東京湾、快晴時には房総半島や三浦半島を見ることができ心休まるひと時を送ることが出来たことが良い思い出になりました。これも家族の協力があってのことで、とても感謝しております。話すとき長い技師生活では、主に担当した業務は微生物検査室でした。今では薬剤感受性はMIC値の報告ですが、昔は3濃度ディスク法を用いて低濃度・中濃度・高濃度の試験紙に阻止円がどの濃度に出来ているかを判定します。ご存じの会員の方はいないかもしれません。どの検査も昔に比べてだいぶ進化したと思います。今もなお感染拡大が続いている新型コロナウイルスのオミクロン株も変異により収束できずにいます。今回のCOVID-19感染拡大に伴いPCR遺伝子検査や抗原定量（定性）検査を担う臨床検査技師が注目を浴びました。当院においても院長巡視にて検査科へのお礼をちょうだいいたしました。これも検査科スタッフのお陰によるもので全員に感謝しております。36年間臨床検査技師として全うできたのは恵まれた上司・先輩・同僚・後輩技師皆様のお陰だと思っております。本当にありがとうございました。

最後になりますが、皆様のご多幸とご活躍を心より祈念して、挨拶とさせていただきます。

## NHO 東京病院 永井 信浩



「60歳」定年退職を迎えるにあたり、この原稿を執筆することであらためて自分の過去について振り返る良い機会となりました。

国立療養所晴嵐荘病院に賃金職員として採用され、その後8回の転勤を経て7施設にお世話になりました。今年3月31日付で国立病院機構東京病院を最後に37年間、臨床検査業務に携わることができ、本当にありがとうございました。スタートと終わりが(旧)療養所というものも何か運命的なものを感じます。

さて、私の臨床検査技師生活を振り返ると、20代、(夢中になって地区会の勉強会・研修会に参加!) 30代、(臨床検査業務に没頭?) 40代、(資格取得に向けて勉強…) 50代、(管理業務…) とすべてにおいて「人とひと」の繋がりが大切であることを痛感しました。更に仲間同士の親睦会によるコミュニケーション等、とても楽しく有意義なひと時でした。昨今、集まることも考えられる毎日ですが…。また、自分自身が医療人としてここまで臨床検査を続けられたことや最後にこの原稿を頂けることも、良き先輩方、同僚、そして後輩の協力のおかげだと思っています。そして、最後の施設となりました東京病院(臨床検査科)の皆様、また会員の方々には本当にお世話になりました。

関信支部の方々におかれましては、臨床検査部門の更なる飛躍と会員一人ひとりの「創造力」を結集し、臨床検査における明るい未来への一歩に繋がること期待しています。

最後になりましたが、皆様方のご多幸を祈念するとともに健康には十分留意するようお願い致します。

## 国立多摩全生園 渡邊 孝浩



還暦(60th birthday)を迎え『赤いちゃんちゃんこ』を着せられるお年頃になってしまいました。

北海道の田舎から『おら東京さ行くだ!』と意気込んで上京し、新宿高層ビル群を見てビックリたまげた(圧倒された)ことなど『定年を迎えて』を書きながら走馬燈のように過ぎて行きます。

若かりし頃は、支部理事も努めさせていただきました。ちょうどその頃は、支部主催の超音波・細胞診等の認定試験対策勉強会が始まり、また現在の支部ロゴマークが作成され承認されました。第30回を迎え、記念支部学会を科学技術館で開催されるなど様々な新しいことを経験させて頂きました。まだ、終息状況がはっきりしないコロナ禍ではありますが、会員の皆様には日々、業務に精励されておられることと思います。タスク・シフト/シェアへの取り組みなど、臨床検査を取り巻く環境は厳しさと活躍の場を増してきています。with コロナを見据え、新しいことに挑戦する皆様の活躍と明るい未来を思い描いています。

最後になりましたが、国臨協関信支部の益々の発展と会員の皆様のご健勝ならびにご活躍を心からご祈念いたします。

最後に少しだけ、故郷自慢をいたします。北海道日本海に浮かぶ離島『奥尻島』です。まずは、島のシンボル『なべつる岩』です。自然浸食により出来た奇岩です。鍋の取っ手(つる)に似ているのが名前の由来です。高さは、19.5メートルあります。夜間はライトアップされ、イカ釣り漁の時期は漁火とともに幻想的な風景を見せます。

漁火と江差と奥尻を結ぶフェリーです。夏季はゆるキャラの『うにまる』がお迎えしてくれます。来島するには歴史ある函館が重要な中継地となります。青函トンネルで本州と結ばれ、通過時間25分で『はるばる来たぜ~函館~』となります。

北海道新幹線終着駅の函館北斗駅では『北斗の拳』の『ケンシロウ』が迎えてくれます。冬の函館五稜郭公園です。堀は凍結し、冬ならではの景観です。夕刻にはイルミネーションで彩られ五稜郭タワーからの展望も魅力的です。函館・奥尻とは是非一度、足を運んでゆっくりと流れる島時間を満喫してみたいはいかがでしょうか。

本当にお世話になりました。そして、ありがとうございました。





## NHO 小諸高原病院 沼田 ますみ

私の誕生日とも重なる3月31日付をもちまして定年退職を迎えることとなりました。定年までの年月を考え始めたのが50歳を過ぎた頃からでしょうか、とうとうこの日が来たのかと感慨深く思います。私は昭和59年6月に国立東京第二病院（現、東京医療センター）で採用、国立国際医療研究センター、国立がん研究センター中央病院、東京医療センター、下総精神医療センター、小諸高原病院と5施設でお世話になりました。

この原稿依頼を受けた時、かつて新人コーナーで執筆した記憶が蘇りました。初めと終わりを書かせて頂けるとは何と有り難いことでしょう。新人の時、何にでもチャレンジして女性でも男性に負けないよう自己研鑽していきたいという内容を書いて、後々「記事を読んで衝撃的だった。こんな女子もいるんだ。」と何人かの技師長に言われました。当時は男性と張り合う志を持った女性は珍しかったようです。施設規模のせいかな新人～主任時代は求められることも多く大変ではありましたが、振り返ると充実した毎日でした。千葉県への長距離通勤や長野県への単身赴任も私にとってはワクワクするような出来事で、結構楽しめました。新人時代からチャレンジ精神で臨んできた検査技師人生、達成感こそあれ全く悔いはありません。

これまでに幾人の人との出会いがあったのでしょうか。数え切れないほどの人が私を支え、励まし、協力し、そして助けてくれました。皆様のお陰で今日があると思っております。ここにすべての人々に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。最後に、国臨協関信支部の発展と皆様のご活躍を心より祈念して挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。



## NHO 西新潟中央病院 渡辺 靖

昭和59年、賃金職員として西新潟病院での採用から38年間、4施設で仕事をさせていただきました。この間、記憶に残る言葉をいくつかいただきました。ある年、人事異動の内示直後にその年に退官する院長が検査室までおいでになり「申し訳ない。何とかこの病院で主任にしたかったのだが、私の力不足で…」と深々と頭を下げられました（もちろん、院内昇任をお願いしていた訳ではない）。技師として施設から必要とされていたことに素直に嬉しく思ったものでした。その数年後の主任当時、技師

長から「ルーチンワークしなくていいから関信の微生物検査を底上げするための何かをやれ！」と言われました（もちろんルーチンやりました）。施設単位ではなく大局的に物事を考えた上での発言に驚いたものでした。現在、多くの人材が育っていますが、底上げに関して自分が何をやり、どのような成果を出したのか疑問符が付いたまま定年を迎えることになってしまいました…。また、技師長となり関東で仕事をしていたある時、過去と一緒に仕事したことのある技師長から「お前、もう少し早くこっちに出て来たら、人生変わったのに…」とも言われました。複数施設での勤務や関信支部役員を経験した後にいただいた言葉だったので、言わんとしていることが良く分かりました。人脈・経験・タイミング次第で違った景色も見えたのだろうということでしょう。とは言え、出世欲のかけらもなかった男が、技師長という立場で定年を迎えることになるとは、若い頃には思いもしませんでした。心残りは多々ありますが、周りの方々のおかげで、つくづく感じております。ありがとうございました。

最後に皆様のご多幸と関信支部のご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

### そのほかに退職される会員の方々

氏名	施設名称	役職名	氏名	施設名称	役職名
久間 修平	NHO 水戸医療センター	臨床検査技師長	根本 浩	NHO 水戸医療センター	生理学主任
林 元久	NHO 宇都宮病院	臨床検査技師長	小野 剛司	NHO 相模原病院	医化学主任
山田 大助	NHO 神奈川病院	臨床検査技師長	立川 恵子	NHO 神奈川病院	血液主任
小池 容子	NHO 千葉東病院	副臨床検査技師長	目崎 和久	国立国際医療研究センター病院	第一血液主任
			高田 貴子	国立がん研究センター中央病院	臨床検査技師

# 関信支部ホームページの 活用法を知ろう！

コロナ禍で閉鎖的な生活を送ってきた(新)人技師が自身の悩みを先輩に相談するようです。

先輩、せっかくNHOに入職したのに他施設との交流はないし大きな組織に入った実感が湧きません！先々転職のことを考えると自施設以外のことを全く知らないのが不安なのですが先輩はそういうことはありませんか？

**新**

**先**

確かに昔に比べれば交流の場は減ってしまったけれど、NHOには国臨協という臨床検査技師の職能団体があって、うちの病院は関信支部に属している。関信支部は支部ニュースやホームページとか見れば少なからず雰囲気はつかめるんじゃないかな

**先**

定期的に行われる支部ニュースや更新されると随時連絡のくるホームページはまだ知らないか

**先**

ホームページはここにアクセスすれば見られるよ <https://www.kanshinshibu.org/>

**先**

関信支部ホームページではトップページにお知らせとして更新された最新情報を載せ、分かりやすいようにしているんだ

**先**

このホームページはスマホでも簡単にみれるんだ  
PC版と同じアクセスコードで見られるよ  
QRコードの方が便利かな

何ですかそれは？

**新**



関信支部 HP



えっ、スマホでも見れるなら通勤電車とか自宅でもみれるじゃないですか！

**新**

こんなホームページがあったんですね！会員専用ページはどうすれば入れるのですか？

**新**

**先**

ホームページ更新時に「国臨協関信支部ホームページ更新のお知らせ」が施設連絡者宛にメールが送られてくるのだけれど、そのメールにユーザー名とパスワードが載っているのでもそこを見るといいよ



ユーザー名……………、パスワード……………  
を入力してと、アクセスできました！

**新**

**先**

会員専用ページでは関信支部主催研修会や活動報告、地区会、支部ニュース、資料・動画アーカイブ、OB会がそれぞれのページにいけるようになっているんだ

**先**

地区会ページでは、地区会それぞれの会報誌や活動記録が見られるんだ。これこれ昔書いた新人自己紹介、ちょっと恥ずかしいな

**先**

学術委員会のページでは、各部門でのスペシャリストがルーチンでの困りごとや苦慮した事象の解決策を提案してくれているんだ



顔が強ばってますね、先輩でも緊張するんですね

**新**



**先**

リンクも使うかな。各臨床検査関連団体サイトへのURLが貼られているので認定資格取得や支部外の学会参加を考えているならここから調べられるし、外部サイトにもアクセスしやすいような工夫がされているよ

こんな頼りになる委員会があったなんて・・・、大きなグループだからこそこの助け合いって感じがします

**新**



**先**

スマホでの使い方を少し教えておくれ 左上のメニューをタッチしてみて

**先**

会員専用も「国臨協関信支部ホームページ更新のお知らせ」で送られてくるメールのユーザー名、パスワードをつかえば開けるよ

PC版と一緒にじゃないですか！

**新**



**先**

紙で発行されている支部ニュースも会員専用の支部ニュースページからみられるしバックナンバーも載っているよ

**先**

普段メールボックス確認してない君でも何度でも読み直せるというわけだ

うっ、すみません。支部ニュースも面白いですね、今度からちゃんと紙版を確認しよー

**新**

こうして新人技師の抱えていた不安は、充実したコンテンツのホームページによって解消されたのでした。皆さんも是非、関信支部ホームページを利用してくださいね。

目指そう!  
認定資格で  
LEVEL UP



認定輸血検査技師・  
二級臨床検査士 (神経生理学)

NHO 高崎総合医療センター  
飯田 あいみ



2022年8月に認定輸血検査技師、10月に二級臨床検査士(神経生理学)を受験し合格することができました。

〈認定輸血検査技師〉

【きっかけ】入職より検体・輸血検査に従事し、当時の上司が有資格者、先輩が受験予定(その後一発合格)という環境で身近な資格試験でした。受験資格要件(申請時で検査技師歴満5年など)を満たした2019年に受験し、結果は二次試験(実技)が不合格でした。コロナ流行により実技試験は2年間延期となり2022年合格しました。【試験内容】一次:筆記。二次:実技①血液型80分②抗体(交差適合試験)80分。※遠心の順番待ちなどで時間が押したため試験時間は延長されました。(一次、二次試験とも必須回答項目あり)試験案内には実技の評価基準が掲載されています。【試験対策】筆記はスタンダード輸血検査テキスト(医歯薬出版株式会社)を熟読し、群馬県の研究班には必ず参加しました。問題を解き、それに関する内容をノートにまとめました。実技はコロナ禍以前では血液センター主催の実技講習会(初級・中級)や輸血テクニカルセミナーに参加し、試験前一月は日常業務終了後、本番同様の検体を作製し(血液型3件)毎日練習しました。再受験前は仲間の手技を見て、ラベリング方法や赤血球の洗浄操作、3%赤血球浮遊液の作製、生食分注、スポイトでの滴下など基本的なことを見直し、専用の試験管立て、使い慣れた油性マジックペン、表示が小さいタイマーや読みやすい時計など道具にもこだわりました。手技の正解は一つではないため、スムーズな検査ができるよう自分のやりやすい手技を模索しました。輸血・移植検査技術教本(丸善出版)、輸血のための検査マニュアル(日本輸血・細胞治療学会)、輸血検査における標準手順書(愛知県臨床検査標準化協議会)を参考にしました。

〈二級臨床検査士 (神経生理学)〉

【きっかけ】2年前頃より生理検査にも携わり、脳波・神経伝導検査を日常業務で行うこととなりました。知識はほとんどなく、知識・技術力の向上を目的として挑戦しました。【試験内容】1日目:筆記50問5択。2日目:実技(口頭試問含む)。被検者は学生です。脳波は指定された位置に電極を取り付け記録します。機器操作についてはその都度教えてもらえます。アースの接続やコードの断線に注意し、過呼吸賦活を行います。口頭試問は10問程度、脳波の判読が主ですが、睡眠ポリグラフやオドボール課題、中心溝の同定方法など幅広く問われました。神経伝導検査は刺激頻度や持続時間などを確認後、尺骨神経のMCVを測定しました。波形は出しやすく5~10分程度で検査は終了しました。口頭試問は10問程度、脊髄の基本構造、針筋電図など疾患との関係について問われました。【試験対策】筆記は試験問題集(日本臨床検査同学院)を10年分程度繰り返し解きました。実技は対人なので練習があまりできませんでしたが、日常業務の中で試験に沿った方法(メジャーを使って計測、マークを付ける、筋腹の位置を把握するなど)で電極を付けるよう心掛けました。また過去に受験した人からの情報収集(上司や同僚に相談し、連絡を取っていただきました。)を行いました。

〈まとめ〉

認定輸血は本部への申請により金額面(受講料補助)、時間面(受講命令による業務扱い)での支援が受けられます。合格への近道は熟練者の手技を真似ることだと思います。資格試験を受けるにあたり、手本となる上司や先輩に恵まれ、共に切磋琢磨し合える仲間がいたことは非常に幸運であると感じました。認定輸血検査技師・二級臨床検査士(神経生理学)の取得によって自信をもって検査を実施し、わたし自身が目標とされる技師になれるよう日々精進していきたいです。

# 会員のひろば

## 「私の休日」

国立成育医療研究センター  
高野 美樹



私の休日は、アマチュアオーケストラ（アマオケ）にバイオリン奏者として参加しています。バイオリンは小学生から習っていて、学生時代にオーケストラサークルに入りました。学生時代の唯一の自慢は、サントリーホールで演奏会をしたことです。収容人数約2000人規模の広いホールで、とても緊張したことを今でもよく覚えています。就職してからも、近所のアマオケや弦楽アンサンブル、弦楽四重奏などに参加しています。家族も夫（コントラバス）、高校生の娘（チェロ）と私の3人で、休日は練習に励んでいます。

オーケストラの楽しみは色々な楽器と曲を作りあげていくことです。バイオリンだけでなく、他の弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器とみんなで演奏し、本番の演奏会で良い演奏ができたときの充実感は計り知れないものがあります。もちろん、その域に達するためには個人練習やパート譜・オーケストラスコア（総譜）を読み込むことも大切です。忙しくてなかなか楽器を触れないときは、パート譜やスコアを見ながら曲を聴き、自分のパートがどんな役割を果たしているのか、他のパートがどんな役目をしているのかを勉強することもあります。また、楽譜を深く読み込んでいくと、その作曲者の時代背景や意図なども理解でき、それも楽しみの一つとなっています。



そして私の参加しているアマオケには様々な年代や職種の人がおり、指導してくれるプロの演奏家の方々との交流もあります。仕事だけでは出会えない様々な方々との交流は、貴重な経験などをもた

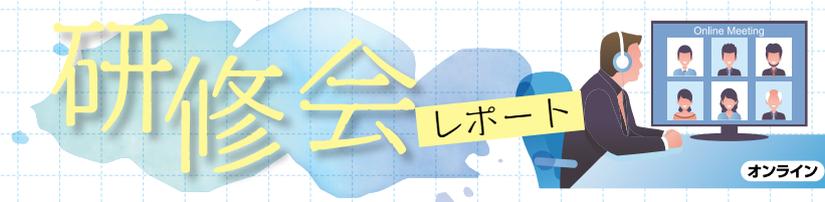


らしてくれることもあり、学生時代からずっとアマオケを続けている一因でもあります。

自分で楽器を弾くことも好きですが、もちろん演奏会を聴きに行くことも好きです。我が家では、毎年12月はベートーヴェンの“第九”を聴きに行くことが恒例の行事となっています。クラシック音楽の演奏会は敷居が高いイメージを持つ方もおられると思います。確かにプロオケの演奏会などは、少々お値段が高いものもありますが、手頃な値段で聴ける演奏会もたくさんあります。例えば、音楽大学や音楽学部がある大学のオケなどではかなり安い値段で、手軽に演奏会に行くことができます。しかも、若い音楽家の卵たちの演奏なので、とても情熱もった良い演奏を手軽に聴くことができます。クラシック音楽自体に苦手意識がある方でしたら、ゲーム音楽や映画音楽などの演奏会もたくさんあります。生で聴くオケの演奏はとても迫力があります。クラシック音楽の知識がなくても、好きな曲や作曲者、音楽家に出会えるかもしれません。ぜひ、たくさんの方に演奏会に足を運んでいただきたいです。

コロナの影響で特に2020年は練習会場が閉鎖され、演奏会も中止になり、私にとって好きなことができない辛い時期もありました。しかし一昨年くらいから、感染対策をとりつつ演奏会を開こうという機運も高まり、今では演奏会の頻度もほぼコロナ禍以前まで回復しているようです。

私の予定は春に友人のオケの演奏会にエキストラで参加し、秋には自分のオケの演奏会を予定しています。秋の演奏会では、ブラームスの交響曲第2番を演奏します。演奏会に向けて練習が始まったばかりですが、好きな曲なので私は今からとてもわくわくしています。このわくわく感がお客さんに伝わるような良い演奏ができように、これからも精進していきたいと思っています。



## 令和4年度第2回国臨協関信支部 主催研修会に参加して

NHO 神奈川病院  
大木 仁



令和4年12月、オンデマンド配信にて令和4年度第2回国臨協関信支部主催研修会が開催され、演題の「臨床検査技師にとってのタスクシフト～その背景と今後に向けた考え方～」を拝聴しました。

本研修ではタスクシフトの経緯、臨床検査技師としてタスクシフトできる業務、業務拡大とその考え方について話をいただきました。タスクシフトの経緯では、タスクシフトの目的が医師の業務負担を軽減させることにあり、医師の業務を医療従事者等に移管、共同化する必要があるということを知りやすく解説していただきました。臨床検査技師としてタスクシフトできる業務では、厚労省医政局の検討会で討議されている事項（臨床検査技師が現行制度下で実施可能な業務、法改正を行い推進する業務、医師側団体が要望する業務）について最新の話をお聞かせいただきました。業務拡大とその考え方では、三位一体改革の推進にあたり今後の各病院の方針に対応していけるよう、タスクシフト、病院機能（地域医療構想）、臨床検査部門のそれぞれで重きを置いた場合について事例を挙げて話をいただきました。

今回、研修会に参加させていただき、タスクシフトについて考える有意義な時間となりました。ご教示いただいた内容を踏まえ、私が所属する神奈川病院でも検査科全体で病院の方針に対応していけるよう努めていきたいと思っております。

最後になりますが、ご多忙の中ご講演いただきましたシーメンスヘルスケア株式会社松尾様、並びに企画、開催していただきました国臨協関信支部の役員の皆様へ心より感謝申し上げます。

## 令和4年度臨床検査技師 実習技能研修3(輸血)

NHO 相模原病院  
小林 史佳



令和5年1月19日（木）、テレビ会議システム Webex を利用した「令和4年度臨床検査技師実習技能研修3（輸血）」が開催されました。

午前中は「チーム医療について臨床検査技師に求めるもの」、「臨床検査技師のタスクシフト/シェア末梢血幹細胞採取」、「輸血用血液製剤の Web 発注」をテーマにご講義いただきました。どの講義も普段聴くことができない内容で、貴重なお話を聴くことができました。チーム医療の講義では医師と看護師の立場からお話いただき、知識向上とチームにおける目的の共有、多職種への理解を深めることの大切さを感じました。

午後は試験管法の手技についてご講義いただき、その後ケーススタディ形式のグループワークを行いました。講義では検査の進め方からミスなく検査を行うための注意点を学ぶことができました。グループワークでは4つのグループに分かれ、症例に対する意見交換を行い、最後にグループごとに発表をしました。症例は血液型や不適合妊娠を取り上げ、結果の解釈から製剤選択や医師への説明まで考えることができ、臨床の現場で遭遇した際のイメージを掴むことができました。また症例に対する解説では着目すべきポイントや考え方について順を追って詳しく解説していただき、自分だけでは見落としていた点に「気づくこと」や「考えること」で症例に対する理解を深めることができました。

今回の研修を受講したことで輸血業務に携わる上で正しい知識の習得はもちろん、緊急時に対する平時でのシミュレーションや多職種とのコミュニケーションの必要性を感じました。研修で学んだことを活かし、今後もさらなる技術向上に努めていきたいと思っております。

最後になりますが今回の研修を企画、開催してくださいました関東信越グループの皆様と、大変ご多忙の中ご指導くださいました講師の先生方に心より感謝申し上げます。

## 臨床検査の精度確保と品質マネジメントシステム研修を受講して

NHO 沼田病院  
池田 和典



2022年12月7日から1月13日と1月19日に「臨床検査の精度確保と品質マネジメントシステム研修」をe-ラーニングおよびCisco Webexを用いたweb研修を受講させていただきました。

「臨床検査の精度確保と品質マネジメントシステム研修」は2部構成であり、第1部はe-ラーニングを用いた研修、第2部はWebexをもちいたWebでのグループディスカッションでした。

第1部のe-ラーニングでは各先生方による「職場改善とPDCAサイクル」「内部監査の実施」「是正の実施」「記録の実施」「国立病院における要求事項」について各40分程度のスライドを拝聴し、検査室に求められる要求事項、職場改善や問題解決手法等についても、興味深く学ばせて頂きました。

第2部においては、事前課題について4名から6名の6グループに分かれ事例について討議し、その結果をまとめて発表しました。午前の課題は、実際の写真からは是正について討議しました。問題点を見つけ出し、その理由と改善方法をグループ内で討議しました。午後は実際の事例から、内部監査について、問題点、直ちに対応する是正処置、再発を防ぐ修正処置について各々の意見を交わし合いました。グループで討議することで異なる立場の目線から問題点が発見でき、その問題を深堀することで新たな問題点を発見する。一つの小さな問題が大きなインシデントを生み、一つの問題を紐解くと、多くの問題が解消される事例も散見され、改めて職場改善の意味と問題分析の重要性を学ぶことができた一日でありました。

今回の研修は「臨床検査の精度確保と品質マネジメントシステム」と題しておりますが、問題解決の手法は職場改善もちろん、人材育成やプライベートにおいても活用できると思われました。職場においては、些細な疑問やトラブルから大きな医療事故へ繋がらない為の事前対応策とシステム構築が責務であります。インシデントは組織を成長させる重要な糧として問題を積極的に深堀していきたく考えております。また、人材の面においても今回の学びを活かして組織に求められる理論に基づいた人材育成と共に、自分自身の成長に学びを活かして精進したいと考えております。

最後になりますが、研修を企画開催していただいた、国立国際医療研究センター病院品質管理室 永井正樹先生をはじめ、機構本部医療部医療課 北沢敏男 臨床検査専門職、他関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

## 新人技師が自身の悩みを先輩に相談

研修会編

関信支部の研修会に参加しようと思うのですがどうしたらよいですか？

新

先

関信支部スケジュールページで支部主催の研修会の開催期間や年間予定がわかるよ



先

会員専用にある国臨協関信支部主催研修会専用ページでは研修会が開催されている期間は、動画や研修会アンケートが開けるようになってとても参加しやすいように工夫されているよ



分かりました。これから研修会も忘れずに参加して勉強します

新

# 第51回 国臨協関信支部学会

日 時：令和5年9月2日(土)  
開催方法：Web開催

## 演題募集のお知らせ

抄録投稿規定および演題登録・抄録作成・送付方法  
関信支部ホームページの  
関信支部学会ページをご参照ください。



演題登録締め切り日  
令和5年5月26日(金)

多数の皆様のご登録  
お待ちしております。

### 新人技師が自身の悩みを先輩に相談

学会編

支部学会に発表しようと思うのですが？

先

関信支部学会ページに開催日や開催方法、テーマ演題募集等が載っていて、随時更新されていくんだ



先

今年の演題募集はもう始まっているから、この前話した課題で検討していこう

ご指導お願いします。新人賞目指して頑張ります！

### 令和4年度 国臨協関信支部 地区代表者会議

令和5年1月21日(土)にZoom  
ミーティングにて地区代表者会議が  
行われました。

当日の資料及び議事録については  
ホームページをご参照ください。

### 編集 後記

新年度を迎え、会員の皆様は  
いかがお過ごしでしょうか。転勤し  
新たな施設で勤務されている方、  
上司や同僚、後輩などが代わり職  
場の環境が変わった方、新会員の  
方も多くおられることと思います。本誌は  
国臨協関信支部で編集を行い年4回ほど発行し、  
支部活動や会員情報等を掲載した広報誌です。

232号では会員の皆様の本誌およびホーム  
ページをより一層活用していただきたいと考  
え、支部ニュースをスマートフォンで閲覧する  
方法やホームページの紹介を特集として掲載し  
ました。今後とも皆様の意向に沿った広報誌作  
りをしたいと考えていますので、ご意見やご要  
望があれば編集委員もしくは支部へご連絡をい  
ただけたらと思います。今後ともご愛読のほど  
よろしくお願い致します。(広報 齋藤)

# 覚えよう 身につけよう 検査技術!

国立がん研究センター東病院  
秋江 健太

## 急性腎障害とバイオマーカー

### 〈急性腎障害 (acute kidney injury: AKI) とは〉

AKIは「急激な腎機能低下を呈する臨床症候群」として定義され、診断にはKDIGO基準が用いられる。その成因は腎前性、腎性、腎後性と多様で、他の疾患・病態に合併すると生命予後が悪化することが知られている。また、かつてAKIは可逆的な病態であると考えられていたが、現在ではCKD発症・進展リスクといった長期腎予後のリスク因子であると認識されており、より早期の診断・治療が求められている。

#### KDIGO基準

AKIの定義：①～③のいずれかを満たすこと

① S-Cr値が48時間以内に0.3 mg/dL以上上昇

② S-Cr値が7日以内の測定値もしくは予測される基礎値の1.5倍以上  
基礎値：eGFRが75 mL/min/1.73 m<sup>2</sup>となるS-Cr値（問題点あり）

③尿量<0.5 mL/kg/hrが6時間以上継続  
(60 kgの人なら尿量<30 mL/hr)

### 〈AKIのバイオマーカー〉

現在のKDIGO基準では診断基準として血清クレアチニン(S-Cr)が用いられているが、S-Cr値は糸球体ろ過量より24～48時間程度遅れて変動するため、急性の変化を捉えられない可能性が指摘されてきた。

今回紹介するAKIのバイオマーカーは、病態の主体である「尿細管上皮細胞の障害」の検出を目的として開発され、すでに保険診療下でAKI診断に活用されているものもある。S-Crが上昇しておらず、AKIバイオマーカーのみが上昇している状態をsubclinical AKIと呼び、その臨床的意義が検討されている。

自施設ではどんな症例で検査が実施されているか、尿沈渣などの所見と関連はないかなど振り返っていただければと思う。

① NGAL (Neutrophil Gelatinase-Associated Lipocalin: 好中球ゼラチナーゼ結合性リポカリン)  
尿細管に虚血や毒素への暴露など急激なストレスがかかると、遠位尿細管細胞で産生が亢進し、近位尿細管細胞では再吸収が阻害されるため尿中NGALが増加する。ただし、尿路感染症のほか、大腸、肝臓、肺などの臓器障害によっても産生が亢進する点に注意が必要。

② L-FABP (Liver-type Fatty Acid-Binding Protein: L型脂肪酸結合蛋白)

尿細管周囲の虚血や再灌流障害により活性酸素が発生すると、遊離脂肪酸が過酸化脂質(細胞毒性: 強)へ変化する。L-FABPは近位尿細管内で発生した活性脂質と結合し、細胞外へ排出することで細胞を保護する役割を担う。

⇒腎障害が発生する前の酸化ストレスを反映している!

③ NAG (N-アセチルグルコサミニダーゼ)

近位尿細管細胞の刷子縁に存在する酵素であり、尿細管障害で上昇することが知られている。ただし、急性/慢性腎炎、ネフローゼ症候群を呈する糸球体腎炎などの糸球体障害に続発する尿細管障害でも上昇するため、上記2項目と比較してAKIへの特異性が高いとは言えない。

④ 特別枠 FENa (fractional excretion of Na: Na排泄分画)

FENaはAKIの原因が腎前性なのか腎性なのかを鑑別する際に使用される指標で以下の式で算出される。腎前性のAKIでは循環血漿量を増やすためにNa再吸収が亢進し、FENaが低下するが、腎性のAKIではFENaが低下しないことから鑑別に有用とされる。

FENaは基準値として1%が提示されることが多いが、Na摂取量によって変動する。入院患者など、食塩摂取量が比較的コントロールされている症例での有用性は高い。

$$FENa (\%) = (U-Na/S-Na) \div (U-Cr/S-Cr) \times 100$$

#### 参考文献

- 湯澤由紀夫,【特集】腎疾患;診断と治療の進歩 II検査データの見方, 日内会誌 97: 971～978, 2008
- 稲熊大城,【特集】糖尿病性腎症;バイオマーカーの進歩, 日腎会誌 59(2): 65-73, 2017
- 堀野太郎,【特集】AKI; AKIの疾患概念と診断基準, 透析会誌 51(2): 117～122, 2018
- 土井研人, 急性腎障害(AKI)の最新治療, 日内会誌 108: 1212～1218, 2019

